

氏名： 坂本 春樹

参加会議・コース名称
AGU Fall Meeting 2018
■ 派遣中の活動と成果
〔派遣中の研究実施状況とその成果を記載してください。具体的な研究内容・方法・成果については、今後の自身の研究の推進を考慮の上、公開して差し支えない範囲に留めてください〕 12月10日(月)～14日(金)の5日間にかけて AGU Fall Meeting 2018 に参加しました。 学会4日目(12月13日(木))に、” A mechanistic model of methane and carbon dioxide emissions on changing soil moisture conditions (土壌水分状態の変動に伴うメタン・二酸化炭素放出の機構モデルについて)” というタイトルでのポスター発表を行いました。他の研究者の方々と議論を交わし、意見を頂くことで今後の研究の糧を得ることが出来ました。特に、メタンガスの放出メカニズムや、メタン濃度・生成速度・参加速度の鉛直分布に関するご指摘を多く頂きましたので、今後の研究課題として取り組んでいきたいと思ひます。また、ポスターセッションを通じて多くの研究者と知り合うことが出来ました。 自身のポスター発表の無い時間は、主に口頭発表に参加しました。自身の研究との関連が特に強いセッションとしては、” The Resilience and Vulnerability of Arctic and Boreal Ecosystems to Climate Change (気候変動に対する、北極域・寒帯の生態系の応答と脆弱性)”、” Vulnerability of Permafrost Carbon to Climate Change (気候変動に対する永久凍土中の炭素の脆弱性)”、” Rising Atmospheric Methane: Causes and Consequences (大気中のメタン増大:原因及び結果について)” といったものに参加し、最新の研究に触れることが出来ました。特に興味深く感じたのは、土壌呼吸に対する冠雪・積雪の効果や、土壌中の微生物動態に関する研究で、これらに関しての知見を深め、自身のモデリングの研究に活かせればと考えております。 今回の学会を通じ、自身の研究分野に関する知見を深め、多くの刺激を受けることが出来ました。このような貴重な機会を与えて頂き、誠にありがとうございました。
■ 派遣支援期間中の研究発表・受賞・アウトリーチ活動

〔派遣中に学会等での研究発表・受賞・アウトリーチ活動があった場合、概要を記載してください。本若手派遣事業から旅費または参加費を支給したもの（科研費等、他の事業予算から経費を支出していないもの）が対象です〕

” A mechanistic model of methane and carbon dioxide emissions on changing soil moisture conditions（土壌水分状態の変動に伴うメタン・二酸化炭素放出の機構モデルについて）” というタイトルで、学会 4 日目(12 月 13 日(木))の午前にポスター発表を行いました。

※図表・写真等を含めて構いません。本様式を使用する場合は、分量の目安は 1～2 ページ程度です。